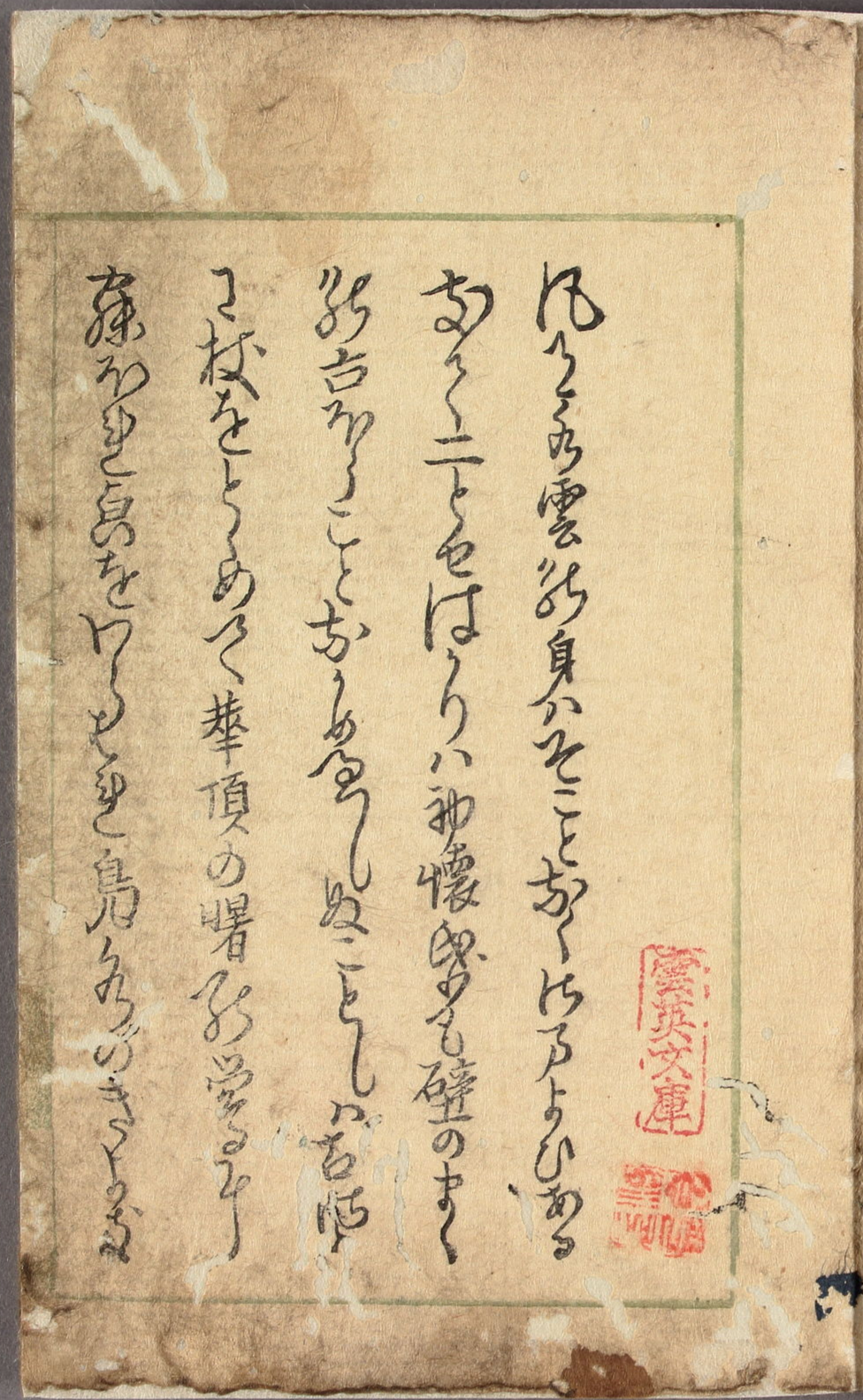


見るとも雲霧の身かそこと分くにたりとひある
あるくに二とをはらりハ神懐ものも碎のまく
霧吉りくことおうあるもし及ことしかを所
さ枝をとらめく華頂の暑霧の晋るを
森のまと泉をりくもと鳥あのきくとる

霊異文庫

てうの盟を味はひ読みて
[illegible]
を詞友のあてうはんみそあるを
[illegible]

寛政庚戌のとし

徳亀菴

冨士の夢を買て言ふ中に昇進せし人有
若子は[illegible]治く[illegible]盛衰[illegible]ある者を
初夏の鷹を擒ふ檜笠紫暁
[illegible]冨つよ此[illegible]の色宛雅
[illegible]霞月の[illegible]の臣標さて闌更

春興　紫曉

若ふつる牡丹のけぶりやうの中
うゝひすの起めゝ揚屋ゝ高音部
鹿ゝ吳るつとゝ移屋ゝ松の書
福寿草やまつねの書ゝ竹筆帝
ゆるる起ゝ蓬ゝ宿の柳ゝ

巣ゝ書ゝ
雪も
あさ新ゝ
春乃水　車容

棋亭寫

乾難乃

もとすゑや

坂の茅

春坡

春興

鳥啼て吟者とまれる柳うゝ　熊三

凡夕切る風うゝ春夕　松洞

菜畑の門一筋の苗うゝ　帰樂

雑喉やうゝ鳴るの小雨うゝ　蛮鳥

春駒や法の御ゝ　自珍

夕暮を声々に小鮎賣　米松

蛙啼て益も絲のしらべ　呂蛉

小竹の手弱き身のしなしなに　松之

なるの島くこと寄もうき綿賣　南昌

叩く戸を出すさうの絲　及鳥

枕ちかきひとあうの鈴蘭　其成

身のひ祈り

咲こうとする姿

嘉菊

古凡　第二

春興　湖南

畑人々牛の背傍に春の水　立來

和刃

痴積の雪ふりこぼす　可翠

梅さくや極楽　高臺寺　道立

春

東都

門前の柳遠き春の暗　成田

常陸の国挑灯の夜の月　月溪

江府

夕涼や牡丹の花の重り　重厚

書御寫

舟の夢や

朝霞

万容

月峰宮

傘手ゝ
うゝや
ゆゝの

芭蕉

摂灘
二松

春興

湖南

孔雀やゆ松のちゝもとのうゝり　騏道

東武

うゝゝゝゝゝ風の小袖這ふ　楚山

善光寺

掃ゝゝゝゝゝは門ゝ春のゆ　路人

哀愛

月影一足ずつのぼるこゝろ　文雀

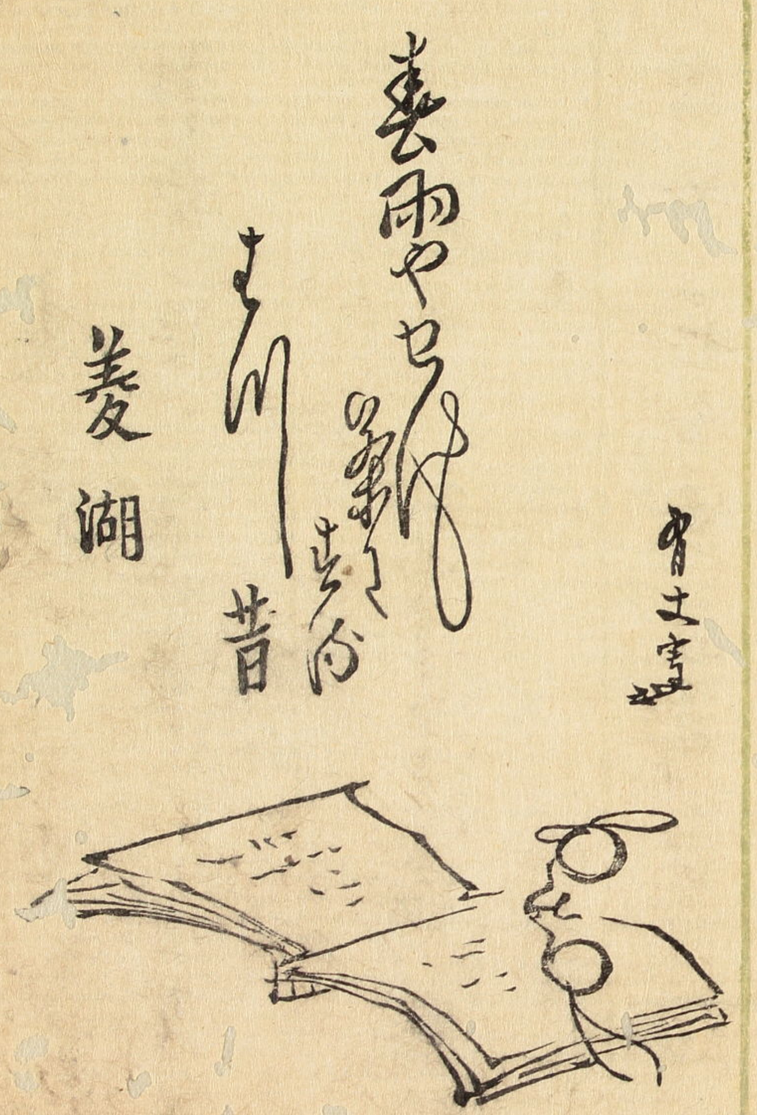
、　兵庫

うらぶれ書や旭さすころの雨　巖苔

、　若州小濱

蝶　蝶ゆる七面堂の石段　沂山

丹沢和知



上京淀の弓ぎりて

夕ぐれや宇治の

灯てくて

まくら魅

伊丹

を橋井戯写

且書

伊丹

陽さしぬまきの戸たゝく猫の恋　菊潭

徐々ゆくも高し　行幸街　百蓮

摂灘

萍乃柳くさうゝ汐干ゆく　千溪

仇岩や尾をとりへの駒　月丘

味よしく雲の樓閣のいろ哉　銀臺

山寺の杉檀の梢ゝ佳七

望るの時ゝ二階の涼哉　桃舍

、

播　荒井曽根

淺川ゝ日こゝろ〻〻鳴蛙　東圃

雲霧の下ゝ雲の上哉　松溪

ねぬ夜　うら

つゝり哉

寒ゝ哉

中野　いりや

池田　左言

丘山や
入日乃
雑の
しゐ

之号

春興　浪速

庭の梅ゆゑ長持そうつりを雪　銀獅
飯蛸のあまもうるかふ新つゆ　嘯風
武蔵野やうりまれる雑の壱　芝風
ちりすゝ名りぬ方へ帰る厂　交風
山ゝ登今宴山春ゆ蛙　仙興

春興

胡葱の香ゝ嚔し　雉子郎　管鳥

うゝひ春ゝ地うゝ春傍行　芦涯

初霞ゝ牛乳初尚やゝ小埜の梅　呑夢

咲るのあゝゝ菓もとゝ切り　魯文

うゝひすゝ藻高やゝ　繰ゝ　雷支

七淀

白梅ゝ二日月の影ゝはし

春ゝ雨ゝゝゝゝんの上ゝ香包

うゝゝもやゝゝゝ花のこゝゝ

庚戌春日　米数

皆興

江品日埜

のとうらく眼の方ゝ北り滝の面　素角

友方くもうらと俺りたゝ月　修六

湖南

白藤や燒砦のけりうゝ　千影

妻もまる隙さつる五加木　岩渡

春興

城南　伏陽

菜の花ふくさ春の月　下方

山の端くいつくす海の色の月　貫山

浪速

雉鳴くや淀の蘆の黒木賣　盛雅

ひかり滅苔ぬる雨の雲　擣室

棋亭寫

雉の巣

雨の中

ひかれ

春卷

志ゝめを猶ゝく春のい〻　江戸　鶴牛

ほゝゝゆく雪の殘る雪解かな　伏見　兎山

葱一把提さげかへり梅林　池田　竹外

中鞋さ蝶の睡々仁王門　藤九

巻ゝ蕨ゝ蕨さ入る新樵かな　池田　戸柳

長閑さゝ月さかゝるもゝ山　敷賀　其水

皆興

蝶とゝゝ寂よ光ゝ春ゝ萩　定秋

競へゝ妹う背自ゝ柳　車蓋

〻

浪華

ゝ梅の香に〻ゝ温泉の湯　火芝

春興

月宮に入るかと疑ふ春の海　百池

宇治田原

、

梅の花は良覩ありこそ家　毛條

高砂

、

打ちしの琵琶を物の春の風　布舟

皆興　摸灘

ゆかさそ問しの梅の香　立川

、

雉の爪ふるさとの霞　桃睡

浪華

、

下ゆくの思ひかくるか　杜若日國

春興

寝ぼけ男もやむ竹ゝ初音かな　閑更

、

青暗乃谷も有る里名桜の雲　青蘿

春もこの比の寒さ花のあとうを見ゝ

うゝひすゝ待侍所も鶯の鳴　蝶夢

大阪成安

青柳や移ひの岩の靜かな哉

江日埜　芦牛

池田
星府

花ちる
啼く
雲ゝ
ゝ
盈ち月

上野にあそぶ

草餅香や歸のあとも春の水

小鮒やゝ中ひゝらの茶ぶくろ

壁四の色枯ぬ川つゝみより

春の雨ゝ浦引長屋下

大佛を見るとのゝする寺部

船出のはるゝもとゝ曙の海
加藤[illegible]て冬雪もつり赤て春の月
常盤なのときゝ[illegible]物書ける[illegible]
車可の雨ゝ[illegible]
いさゝ[illegible]ゝ岩山ゝ[illegible]
花淵ゝ入ゝ早春を[illegible]

右　紫暁

冬ゝ吟　浪華

逐牛哲の園[illegible]ゝ[illegible]ゝ二枡

ゝ

降ゝ雪のとゝ[illegible]ゝ月の垣根か立雲

ゝ　尾陽

冬の日や釜ゝ沸む奥の息　暁臺

冬吟

播　高砂
曾根

夜もすがらやはらさの裏を外る　凡涼

埋火の車井の雫少なくなる　菁莪

青ざめる麦畑を霜枯葉　宇竹

、

寒梅をくぐる橋の咲りまる　紫芳

冬夜即興　立句　紫暁

蜻蛉集りくる馬をあゆませる時雨かな

水の渡橋もうらまる仏尾寺

寒ゆるり乃蛸も居馴るる恵ひす嫌

いろ糸の乱れ聚るの立場うな

ぶらぶら歩く新川越す冬木立

冬、吟

浪華

ちつとさく岩ねんぬきる斧の跡　凡十

こうしに鳴かぬ水車影　井三

越後

三ヶ月の押もす祝ふり雪の山　竹茂

駒止るこゝろ情あり橋の雪　素菊

鳴をりの滑息ことうるせ

乃句もけるる一折とかり出

禮をかすに旭天年冬木立　青牛

書とも窓さきる朝霧　紫曉

沖の鳴る音も小共聞へく

干鰯をつゝみ折り句を　牛
拾ひうる金こゝ〻の月のあ　曉
放下う義も暑くやゝ　牛
蜂も竈馬も家のとりや　曉
古き孤へ宮建くやる　牛
足輕乃兵太や録を纏ん　曉

父子いとゝ務ありけり　牛
打ち水こゝ〻もそよと朝の月　曉
白蓮うゆる律院の門　牛
女ゆもつゝ〻きて軟如ゝ
神に仕ふる命の眉　曉
明近く隙花の竹のあ　ゝ

波のうちわも俤ふ海原　牛

ちりぬ須磨の管絃も浮世　暁

旅の日並ぶ茅屋の春　牛

高麗橋の茶屋

越後屋の店を出ればはや行の雪　紫暁

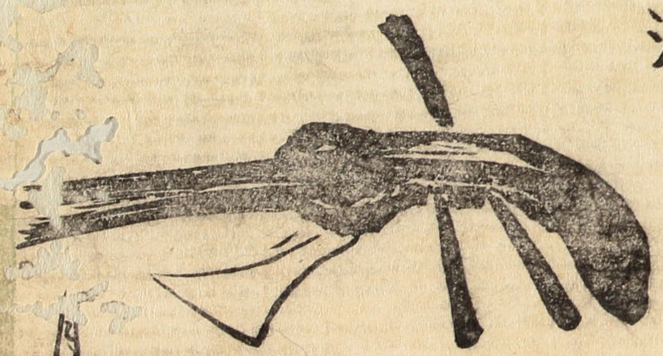
浪華　巴江

ある弾き

法師

ちりすま

巨燵ふ



月吟

老橋井ハ
義写且書

うら道や炭の車
須土の
なく
千とり

冬吟　伊毋

世俱〳〵や鴨川こゆる冬切　趙令

立春左編

行〳〵や春もちらるる京の空　雲郷

冬吟

警固所さゝかの炭の橋　橘山

冬吟　寒暁

ゝ原餅を吹ちる雲子哉

夜神樂や湯上りせし孫の髪

貫荊乃雪ゝ月の雪洞ゝ

寒ゝ声や川ゝ吹と数一ゝ

鷹の目ゝ梢乃ゝ乃ゝ狩場哉